

医師会だより



発刊にあたって

大村市医師会 会長 田崎賢一



令和2年6月8日
付で大村市医師会会
長に就任しました。

日頃より本会の活動にご理解ご協力ありがとうございます。これからも開かれた医師会をめざし、様々な形で市民の皆様へ有用となる医療情報を提供したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

本会の会員総数は一七二名(うち開業医は七九名)。事務局は「ぶらっと大村」(旧浜屋跡)の三階にあります。皆様が住みなれたこの大村の地で最期まで自分らしく暮らしていけるために過不足なく医療提供が行えるための様々な事業を行っています。

「大村市は住みやすい街で人口が増えている」と耳にします。豊かな自然や適度な人口、交通の便の良さが大きな要因ですが、国立長

崎医療センター、市立大村市民病院、開業医と医療が充実しているのも一因と考えます。

医療機関には求められる役割があります。高度な医療は総合病院。病気の初期や高血圧、糖尿病など病状が安定している慢性疾患は「かかりつけ医」。この使い分けが必要です。無駄なく複数の医療機関を受診するには、各医療機関の診療内容を共有することが不可欠です。幸い長崎県には「IC」を用いて情報を共有する「あじさいネット」があります。大村でも医療機関での活用を広め、安全、安心な医療の提供に努めていきます。休日当番医、夜間初期診療センターの運用で総合病院の時間外診療の負担軽減を図っています。

「地域包括ケアシステム」は住みなれた地域で最期まで自分らしく暮らすために必須であり、多職種と協同して構築してきます。会員は在宅医療(往診、訪問診療)を行い、医師会訪問看護ステーション、居宅介護支援(ケアマネ)事業所も運営しています。市民の在宅医療相談受付窓口として在宅医療サポートセンター「まちなか保健室」を「ぶらっと大村」二階に開設しています。介護保険や認知症に関する相談窓口である市役所長寿介護課の包括支援センターと隣り合わせであり、お互いに連携をとりあっています。困った時の相談はどちらでも構いません。気軽に相談に立ち寄ってください。今後在宅医療・介護は役割が増していきます。この領域にかかわる人材の確保、育成は重要課題です。あわせて、良く生きるためのACB(人生会議)も重要な事項です。普及啓発活動にも取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症は、市内での患者発生はないものの今後も気を抜くことができない状況が続きます。各医療機関も感染対策を行い、もしもの感染拡大に際し医療崩壊が生じないよう対策を講じてまいります。

今後とも大村市医師会事業へのご理解ご支援をお願いいたします。

コロナと熱中症対策

長期に渡る自粛生活(苦勞様)でした。皆様のおかげで大過なく過ごせましたこと感謝申し上げます。

しかし、いまだウイルスが消滅したわけではありません。全国各地ではまだ集団発生が起きています。移動制限が解禁になると、再流行をきたす恐れがあります。一氣に流行前の生活に戻ることにはできません。これからも、感染防止を心がけた生活をお願いします。

六月に入り暑い毎日となりました。自粛でなまった身体でのいきなりの運動は怪我のもとです。高齢者に限らず、子供も同様です。自粛で自分が思う以上に筋力や心肺機能が落ちていきます。まずは、自粛前の半分以下の運動で再開し、徐々に、身体を慣らして行って下さい。熱中症対策としても、暑さに身体を慣らすことが大切です。

マスクは感染防止のために今後も欠かせません。ウイルスは唾液の中に潜んでおり、唾液と一緒に拡散すると言われています。マスクは唾液の拡散を防止する役割を果たします。その一方で、空気中のウイルスを吸い込む防止効果についてはいまだ意見が分かれています。拡散させないエチケットとして、人が集まったり、対面で会話をしている場では必要ですが、人と離れて行動する時には必ずしも必要ではありません。暑い中、熱中症を誘発します。三密(密閉、密集、密接)の場以外では思い切ったマスクを外して構いません。

熱中症の症状は、倦怠感、頭痛、発熱、嘔気等ですが、コロナ感染症の症状とも似ています。体調がおかしいと感じた時にはすぐにかかりつけ医に連絡してください。熱中症は早期の治療が肝心です。

これからはコロナ対策と熱中症対策が必要です。三密と、暑い場所での長時間作業を避け、水分補給はこまめに取りながら、身体を冷やす等工夫し、今年の暑い夏を乗り切ってください。

【医心伝心】
六月から大村市医師会は新しい執行部で活動を行います。医師会だよりも刷新し、市民の皆様にご役立つ情報を届けてまいります。(編)